

日本臨床発達心理士会千葉支部 2024年度第1回資格更新研修会・総会のお知らせ

日時 2024年5月26日(日) 13時00分～16時20分 (12時30分受付開始)

会場 千葉大学西千葉キャンパス 教育学部1号館1階大会議室。対面形式で実施。
千葉市稲毛区弥生町1-33 JR西千葉駅または京成みどり台駅より徒歩。
(車の乗り入れはできません)

千葉支部会員向け研修会、研修ポイント1ポイント(申請中)。

定員なしですが、事前参加申込が必要です。参加費500円(当日集金)。

研修会終了後、2024年度千葉支部総会を実施いたします。

テーマ 「性の多様性へのアプローチ」

講師 松尾 圭 先生 (レインボー千葉の会 顧問)

社会福祉士。性的少数者や支援者らで作る「レインボー千葉の会」に立ち上げから関わる。

現在は生活困窮者の自立支援にも取り組む。

今井出雲 先生(市川市よりそい支援事業・がじゅまる+ 相談支援員)

中学ごろからトランスジェンダーであることを自覚。現在はノンバイナリー・トランスジェンダーとして社会生活を送っている。

要旨

「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(令和5年6月23日)が制定されました。ジェンダーアイデンティティ等を含め、個々人の持つ多様な背景を互いに理解し合い、誰もが生き生きとした人生を享受できる共生社会の実現を目指します。教育・福祉・医療等では、性的マイノリティに関する理解増進のための具体的取り組みが進められています。臨床発達心理士は、性的マイノリティに関する科学的根拠に基づき、当事者のニーズに応じた適切な支援を具体的に実施していく必要があります。本研修では、性の発達の多様性、具体性、個別性の理解に関する内容、性的マイノリティの社会的理解に関する内容、性的マイノリティの当事者を支援する上で必要な知識・技能に関する内容 を考えます。

○参加方法等

◆千葉支部会員向け研修会(千葉支部準会員も参加可)。他支部からの参加はできません。

定員なしですが、事前参加申込が必要です。

申込受付期間 2024年4月14日(日)より5月19日(日)まで。参加する方は、千葉支部会員への一斉メールに返信をお願いします。

参加されない方は、総会委任状の返信をお願いいたします。

◆研修会資料は当日配布いたします。総会資料は事前に千葉支部ホームページに掲載し、当日にも配布いたします。

◆参加費(500円)は、研修会当日受付でお支払いください。

◆2024年度の会費が未納の方は参加できません。

◆研修会当日は、検温、手指の消毒、マスクの着用にご協力をお願いいたします。

千葉支部 2024 年度 第 1 回資格更新研修会 報告

2024 年 5 月 26 日(日)13 時～16 時 30 分

対面による研修会 参加者 46 名

性の多様性へのアプローチ

【講師】

松尾 圭先生（レインボー千葉の会・顧問）

今井 出雲先生（市川市よりそい支援事業・がじゅまる＋・相談支援員）

【グループワークアシスタント】

沼倉 智美先生（ちばLGBTQ フレンズ・代表）

日野 比奈子先生（レインボー千葉の会）

今年度は多様な文化的背景をもつ対象者への理解と支援を研修テーマに設定しました。中でも今回の研修では、性的マイノリティの当事者と家族が必要とする支援について考えました。

最初に、千葉市や船橋市等と連携し、パートナーシップ制度の整備に関して具体的実践を重ねている松尾圭先生にご講演いただきました。LGBTQ+や SOGI という言葉の意味、性のあり方の多様性を理解した後、当事者は 8% の割合でいることから、「身近な人に当事者がいるはず」という認識をもつ必要があることを学びました。

その後、今井出雲先生から当事者としての経験が語られました。幼少期から苦悩や葛藤が長期間に亘って続いてきており、とくに両親との葛藤、友人への開示など、人生におけるさまざまな場面で悩んでこられたことがわかりました。またアウティングの危険性についての指摘があり、倫理上、遵守しなければならないことだと認識を新たにしました。

研修中盤では、参加者がグループに分かれて、それぞれの職場で直面している事例について話し合いました。沼倉智美先生・日野比奈子先生にも加わっていただき、活発な意見交換を行いました。講師の先生方への質疑・応答もありました。

さらに沼倉智美先生からは、家族の立場からの経験が語られました。当事者への思いや家族内での葛藤の他、周囲の人たちが理解を深めていけるように、行政などの多方面にわたり社会的行動を重ねてこられたことを知りました。当事者がありのままの自分を大切に生きていけるよう支援していくためには、私たち一人一人がどのようなことができるかを常に考え続けて行くことが大切であると学びました。

（報告 實川慎子）